

播磨町児童発達支援センター開設に向けた サウンディング型市場調査の結果概要

播磨町では、児童発達支援センター（以下「センター」という）の開設及び事業委託について検討を進めております。このセンターの開設及び事業委託について、民間事業者の皆様からのご意見をうかがうサウンディング型市場調査を実施しましたので、その結果の概要を公表します。

1 実施経過

実施要領等の公表	令和6年10月29日（火）
調査の実施	令和6年11月28日（木）、29日（金）

【参加団体：2事業者】

2 対話の内容

- 1) センター事業の内容について（実行可能性・提案・アイデア等）
- 2) センター職員配置及び資格について
- 3) 想定される事業経費（内訳含む）について
- 4) 事業実施に向けたスケジュールについて（事業の優先順位等）
- 5) センター業務実施の可能性について

3 結果の概要

別紙のとおり

4 今後の予定

今回のサウンディング型市場調査の結果を踏まえ、センター事業委託についての具体的な検討を進めていきます。

結果の概要

1) センター事業の内容について（実行可能性・提案・アイデア等）

【児童発達支援事業・親子教室】

- ・ 個別療育は、集団療育中の取り出しではなく、集団療育とは別の日に実施した方が良い。取り出しにすると、子どもの集団での流れを分断するためでメリットが大きい。また個別療育は親子通園とし、保護者に家での様子を聞きながら、療育内容を見てもらう方が良い。
- ・ 未就学児の親子教室は、週1回程度で、乳幼児健康診査後の支援が必要な親子フォローができると考える。月1回程度の教室では、保護者支援には役立つが、子どもの支援・療育となると週1回程度が適切と考える。
- ・ 就園前後は週1～2回個別対応で「個」を育て、小集団で園での活動ができるように支援する教室を考えてもよいのではないかと考える。

【巡回訪問・保育所等訪問支援事業】

- ・ 午前中に園訪問、午後に園とのミーティングという形になるだろう。

2) センター職員配置及び資格について

- ・ 集団療育、アウトリーチをしながら、随時の入口相談を考えると職員をもう少し増やした方がよいように思う。
- ・ 子どもが通園している間は、5～6人の職員が必要。
- ・ 「相談支援専門員」「公認心理師」「心理士」の人材確保が難しいのではないかと考える。
- ・ 令和7年度の人員は、事業と見合わせても適切と考える。

3) 想定される事業経費（内訳含む）について

- ・ 事業内容的に人材確保が重要であるため、経費もほとんどを人件費が占める。
- ・ 経営を成り立たせるためには、給付事業を充実させた方がよいのではないかと考える。

4) 事業実施に向けたスケジュールについて（事業の優先順位等）

- ・ 初年度は地域の人たちとの信頼関係を構築していく時期と考える。そのため、まずはどの事業も広く浅くやり、その後2～3年かけて事業の構築、ネットワークづくりをした方が良い。

5) センター業務実施の可能性について

- ・ 現在町で実施している療育事業に関わっているセラピストの方々の協力があると、播磨町の子どもたちのことも分かっており実施しやすい。